

自治研センターと並走し50年

振りかえれば本当に長い間並走してきたと思う。紙幅の関係もあり設立から半分位の時期に止まることをお許し下さい。1977年6月自治研月報創刊号の設立総会特集を読み、懐かしさがこみ上げる。設立以来のセンター関係者は上林得郎顧問お一人くらいではないだろうか。まさにセンターにとって生き字引の様な方である。上林さんは横浜市役所勤務の先輩であり共に相前後して横浜市従労組の中執を担った時もある。1963年飛鳥田一雄氏が市長に初当選、1967年二期目当選後、私は横浜市労連が以前から取り組んできた横浜市住民運動連合の事務局員として派遣された。地域住民の方々に予算内容を説明し、住民要望を課題別にまとめ、行政との窓口にもなった。飛鳥田市長の住民集会に共に参加、全国の革新自治体との連携も活発に行う中で同行した事もあった。

1969年夏、「革新市政下の市民は何を求めているのか」横浜市民生活調査委員会による市民意識調査（個別面接方式）の事務局を住民連合が担った。この調査を先頭で指導された方が中央大学横山桂次教授であった。この時の横山ゼミ生（一緒に調査活動を行う）に、後の自治総合研究所長の辻山幸宣氏がおられた。横山桂次先生は1977年センター設立時に理事長に就任。私は約3年で職場に戻り、横浜市従労組中執など組合役員として活動した。2年ごとの中執選挙運動は地元新聞にも掲載されるほど激しく、市内全事業所を約1か月、朝昼夕と訪問し競い合った。飛鳥田市政の是非や1975年の長洲一二県知事誕生などを背景とした県内の革新勢力の自治体職場での論争も横たわっていた。この頃の自治労運動で指導頂いた方々が1977年のセンター設立に深く関わられた。歴代自治労神奈川執行役員の顔が浮かぶ。多くの方々が鬼籍に入られているが、しっかりバトンを受け活動してきたのか心もとない限りである。長洲知事は「地方の時代」や民際外交を提唱、県内では川崎・横浜・藤沢・鎌倉・横須賀と連携し飛鳥田市長と共に革新自治体のリーダーとして活躍された。センター顧問団に各首長と日本社会党所属の衆参議員の方々の名前がある。

設立から10年、1987年4月私は横浜市南区より横浜市議会議員選挙に立候補し初当選する。既に、センターは中区内の洋服会館から現在の南区高根町に移転している。私にとっては選挙区内であることで大変有難い拠点である。人口増加と行政区再編、米軍基地縮小、増え続けるゴミ問題など議会と地域課題で県内の地方議員の仲間たちと学習・協議する場でもあった。しかし、横浜市議2期当選し来年が3期目の改選期直前1994年秋に、この会館内で私の後援会役員会が連日開催された。社会党県連幹部が出席し参議院神奈川選挙区に立候補してほしいと強く依頼された場所でもある。

95年阪神淡路大震災の年、辛くも参議院議員に初当選できた。村山富市政権時であった。センター顧問団の衆参議員の方々に大変ご支援いただいた。この年、長洲県政は5期20年の幕を閉じた。2026年の今、戦後民主主義を問い直し創り直す時、感慨に浸かる余裕はない。主権在民・住民自治の原則は基本である。

斎藤 勁

（一般社団法人勤草塾代表理事
沖縄県政策参与／神奈川自治研センター顧問）